

# 資料館だより

発行所

高松宮記念ハンセン病資料館  
〒189 東京都東村山市青葉町4-1-13  
電話 0423-96-2909  
FAX 0423-96-2981  
郵便振込 00130-7-764159  
高松宮記念ハンセン病資料館運営協力会

## 来館者四割は団体

### 患者の歴史に関心

資料館開館以来、9月25

日まで十五カ月間の開館日数は三三二日、入館者は一万二七四三人に達しました。そのうち団体は一六八で五〇七八人、全体の約四割となっておりま。団体の主なものは何と言っても看護学校関係で、延べ四一団体、一九〇〇人を超えております。

次いで小学校から大学までの学校関係、一九団体、七〇〇人、茨城、愛知などの婦人会、各宗教団体、各福祉関係などの団体がつづいています。  
一般の博物館、美術館、資料館などに比べて入館者は決して多いとはいえませんが、徐々に資料館の存在が知られるようになり、問い合わせもふえてきております。

看護学校生の場合は、全

生園の施設見学と併せて資料館を訪れるケースが多く、ビデオや展示品を見たり、話を聞いたりして、ハンセン病の歴史を知り、理解を深めているようです。中には資料館をみたことよって医療従事者としての進路を見つけた、との話もありました。

来館者の声  
も一般Ⅱ五二〇、  
児童Ⅱ一八三、  
看護学校Ⅱ六五  
計七〇八人から  
寄せられており  
ます。次に研修  
レポートとして  
出された看護学



説明を聞く看護学生たち

生の文を抜粋して紹介します。

◎札幌市立高等看護学院・A

前略―初めに資料館を見学したときには、驚きと悲しみが胸が熱くなりました。説明して下さった方もハンセン病であり、自らの体験も交えながらのお話は、心にしみ入るものがありました。

りました。その中で特に「五体満足で自然の形で生きる事ができるのは素晴らしい事だ」と言われているのを聞き、普段何気なく過ごしているけれど、健康であることのありがたさを忘れてはならないと反省するとともに、不治の病と言われるハンセン病になり、数多くの苦しみを乗り越えてきた上での言葉の重みを感じました。―後略―

◎日立看護専門学校・B

患者がおかれてきた厳しい社会状況や、精神的苦痛の大きさについて改めて考えさせられました。資料館見学では、全生園の中で作られたという紙幣や藤本事件の藤本松夫氏の話などを読んで、ハンセン病患者が差別と貧困に耐えながら、たたかってきた歴史など改めて認識することができました。又、盲目の患者が点字舌読という方法で、文字を読んでいる姿の写真を見たときはとても感動させられました。―後略―

# 国吉信遺作展 開催

## キャンドルサービス、花冠 琉球の思い出など32点

全生園公会堂には矢嶋、新井、大西、成田の四園長の肖像が掲額されていますが、その製作者であり、詩だけでなく、優れた絵をたくさん遺し、今年の五月に八十三歳で亡くなった国吉さんを悼み、九月十三日から一カ月、「国吉信遺作展」を研修展示室で開催、期間中多くの来館者が鑑賞され、

なかなかの評判でした。国吉さんは沖縄県の出身で菊池恵楓園を振出しに沖縄愛楽園で終戦を迎え、次いで星塚敬愛園、身延深敬園を経て多磨全生園に移られました。絵は敬愛園で少年寮の寮父をしながら、すでに描いていたといわれ、自著の「国吉信詩画集（沖積舎刊）」では「詩作をたつて施設のお世話になり療養のつれづれに油彩の真似事をして今日に至ったが、きっかけは、以前山梨にしばらく滞在中県展に入選したことがあつて



その後は上野美術館の団体展に応募、太平洋画展、一水会展、示現展、二紀展、国際美術協会展等に入選したがめぼしいものは殆ど手許をはなれ」と書かれています。従つて今回、展示された絵は大部分、全生園で描かれたものと思われ、

「花冠」「琉球の思い出」「キャンドルサービス」等、看護学校や治療棟、その他から借り集めた絵も含めて三十二点、一度にこれだけ見られるのは最後の機会かも知れません。妥協を好まず、他人と無闇に交わらず、奇人・変人

といわれながら、孤高の人であったことは確かです。国の隔離撲滅政策に抗し、幾つか施設を転々としたことにも、わが道を行くという姿勢が見られ、だからこそ、間違いない作品が遺せたのです。

### 展示品を補充 写真・絵など

資料館では此の度、二階展示品を若干補充し、展示を一部変更しました。

医療コーナーでは、説明文を一枚加え、写真五葉と患者がTR治療（松丘）を受けた前後の写真飾りしました。また菊池恵楓園自治会より、藤本松夫が法務省に出すために書いた嘆願書と、竜田寮児童の描いた絵を送ってもらい展示しました。6月まで研修展示室で展示していた「全生園・復生病院・昔むかし写真展」の写真は、二階にコーナーを設け、大半をそこへ展示しました。

### 北条民雄著 『いのちの初夜』再版

資料館では開館一周年記念として、北条民雄著『いのちの初夜』を発売元である東京創元社のご諒解を得て、百部製本し一冊四百円で発売しましたところ、たちまち売切れてしまいました。その後も注文が多いため再版することにしました。今回は『いのちの初夜』の他に「間木老人」「望郷歌」を加え、三篇をまとめたもので、コロニー印刷で製本一冊千円、十一月一日発売の予定です。現在予約受付中です。

来館者の声

興味をもつて学習

機会があれば話を

●学生 18歳 女性

最近ハンセン病について学びはじめたのですが、偏見や差別がここまでひどいものとは思いませんでした。貴重な資料が沢山あり、より一層ハンセン病について興味をもつて学習できそうです。入園している方々のすばらしい作品なども拝見できてとてもよかったです。

●看護婦 53歳 女性

日経メディカルの記事を読んで見学させて欲しいと思いました。医療従事者として目の覚める気がしました。この歴史を踏まえて明日から患者さんに接していきます。とても素晴らしい記念館です。

●学生 21歳 男性

病気の人の写真をもつと沢山展示してほしいと思う。どういうふうな彼らが生きてきたのか、手さぐりながらも多少知ることができた。機会があれば是非いろんな話を聞きたい。

●学生 20歳 女性

鉄格子、当時の部屋などが特にリアリティーにあふれて

●会社員 59歳 男性

患者が偽名を使っていることが出ていない。又何故

●学生 20歳 女性

いたので印象に残っている。当時の生活の大変さが傳はれる。ただ欲をいえば当事者の方のお話説明があればもっといいと思った。紙に書いて貼ってあるのだけでもいいのだけれど！

差別や偏見の深さを知る

●主婦 55歳 女性

私たちは障害者ですが、監房などありません。権利としての、なんて言える時代に住んでいます。全生園等患者さんたちの闘いの重い教訓を胸に、障害者の住みよい社会を作っていきたいと思えます。

●主婦 53歳 女性

ゆっくりと全部見終わって、今ここに私の気持を言い表わす言葉が見つかりません。近いうちにもう一度医学生の姪と伺いたいと思っています。

●団体役員 69歳 男性

断種、収容でなく隔離撲滅です。全生村の石の道しるべ、通い婚、園券、望郷の丘、骨になっても故郷に還れない納骨堂、舌で点字を読む写真、案内者の説明は正に肺腑を衝くというか言うべき言葉、書く文章を知らない。

●学生 19歳 女性

見学してよかったと心から思っています。差別や偏見の深さを知ることができましたが、まだまだ学ぶべきことは沢山あります。

「俱会一処」や冬敏之さんの本を読み、正直言ってものすごく重い」という感想を持つていたのですが、現実を見ることによって、こ

●学生 20歳 女性

ここに来るのは三回目ですが、来るたびにハンセン病の深い歴史を考えさせられます。この過去が過去としてほうむり去られないよう、このような資料館として残し、語りつがれていく

●学生 20歳 女性

慰安婦、強制連行と同根と

思う。ライ予防法はまさに

国家による犯罪である。

●主婦 73歳 女性

本日、バスの中から国吉信先生の遺作展の案内を見て庭園に入り、遺作展を拝見のあと二階を覗かせていただきました。これ程の素晴らしい資料館をもつと大勢の人々に見てほしいと思いました。有難うございました。

# シンポ ジュム 『らい予防法』

## 皓星社でブックレット

去る六月二十五日、資料館開館一周年記念として全生園公会堂で開催されたシンポジウム「らい予防法改正問題をめぐって」のブックレットが、十月上旬、皓星社から発行されることになりました。

内容は大谷藤郎資料館々長の序文、司会・成田稔資

資料館展示コーナーで紹介されておりまず先駆者(二十一人)を今号より順次掲載して紹介致します。

忍性は健保五年、大和の国(奈良県)に生まれた。十六歳まで幸福に過ごしていたが、母が臨終に際し、出家姿をひとめ見たいと望んだため髪を剃り、法衣をまとって見せた。この時、すでに出家する心が決まっていたか。忍性は仁治元年、

料館運営委員長、講師―大谷藤郎(藤楓協会理事長)

中谷理子(大東文化大教授)

村上国男(所長連盟会長)

高瀬重二郎(全患協会会長)

の発言、講演内容と、会場からの質疑応答などです。

また資料として、全医労

発行の「らい白書」、らい予

防法の全文が付記されます。

A5判、一〇〇ページで定価は八〇〇円です。

過去百年にわたる日本のハンセン病行政の根幹となつた「らい予防法」の実態を知るためにも、関心のある方は是非一読下さい。

### ◎資料館回誌

▼7月12日当資料館が日本博物館協会へ入会する。

▼7月30日テレビ朝日「ザ・スクープ」で「九百人の命を救った医師の闘い」と題して、戦時中沖繩愛楽園で

活躍された早田皓医師を紹介する。

▼8月14日午前八時より三十分間、NHK大阪、ラジオ第二放送「戦争と障害者」の中で、全生園の平沢保治さんと松本馨さんが体験談を語る。

▼8月18日東村山市第五中学校三年生一同が、古新聞アルミ缶回収で得た一万一千五百六円を「資料館で使用してほしい」と寄付してくる。

▼8月24日大阪人権歴史資

てやった、という逸話は広く知られている。

忍性はのちに関東へ下向し、極楽寺の開山となり、鎌倉幕府の信望を得て西大寺流戒律の護持と、その積極的実践のための慈善救済活動に貢献した。忍性は生涯の半ば近くを極楽寺で送り、嘉元元年に八十七歳で亡くなったが、没後、後醍醐天皇から菩薩号が与えられた。

### 先駆者① 忍性菩薩 一一二一七―一二〇三

勧め、慈善救済活動に入っていた。

非人や乞食や、病気で苦しむ者に文珠菩薩の姿を重

最古の救癩施設、北山十八間戸を創設した。そこから手足が不自由

で歩けない重症患者を背負って毎日晝に町へ出、物乞いをさせて夕方再び背負って戻り、生活を成り立たせ

料館の小島伸豊氏来館。同資料館は九年前に開館、現在は増築工事中で来年12月に再開館予定とのこと。

今までは同和問題や在日韓国・朝鮮人問題などをとりあげて来たが、今後はハンセン病や障害者の人権問題などをテーマにしたいので、写真撮影、資料収集、取材などの協力を得たい、との話。運営委員会で検討した結果、諒承する。

### ◎あとがき

七月より九月にかけて各園より沢山の書籍の寄贈を頂いた。随筆、創作、記録、詩集、散文集などの他に、録音テープ、ビデオ三本、また山本俊一先生からはご自身が撮られたノルウエーのハンセンの家の写真帖を頂いた。感謝致しますとともに大切に保管させて頂きます。

酷暑より、猛暑が近づいた。今年の夏、どうやら峠も過ぎました。呉々もご自愛の程を― (修)